

第134図 11D類土器実測図 (3) 【菱形文・三角形文3】

上げられているが、輪積み痕での破損が明瞭に観察できる。胎土はいわゆる指宿胎土の土器で、石英粒や長石粒、小豆色の小粒子や角閃石が多く含まれる。

915は復元口径24.5cm程で、平坦な口唇部の4か所に低い山形突起を備えるとみられる資料である。口縁部を周回する上下の並行沈線文間に三角形文を構成する。施

文帯はナデ、内面は水平方向のヘラナデで仕上げられており、長石粒が目立つ胎土を用いている。916は口縁部に二枚貝による刺みを先行して施し、その下位に直線文、大波文、鈎形文等からなる施文帯を設けている。また、明かり窓付の突起部上面も二枚貝で刺みを施している。917の施文具は半截竹管状工具で、三角文を構成す



第135図 11E類土器分布図

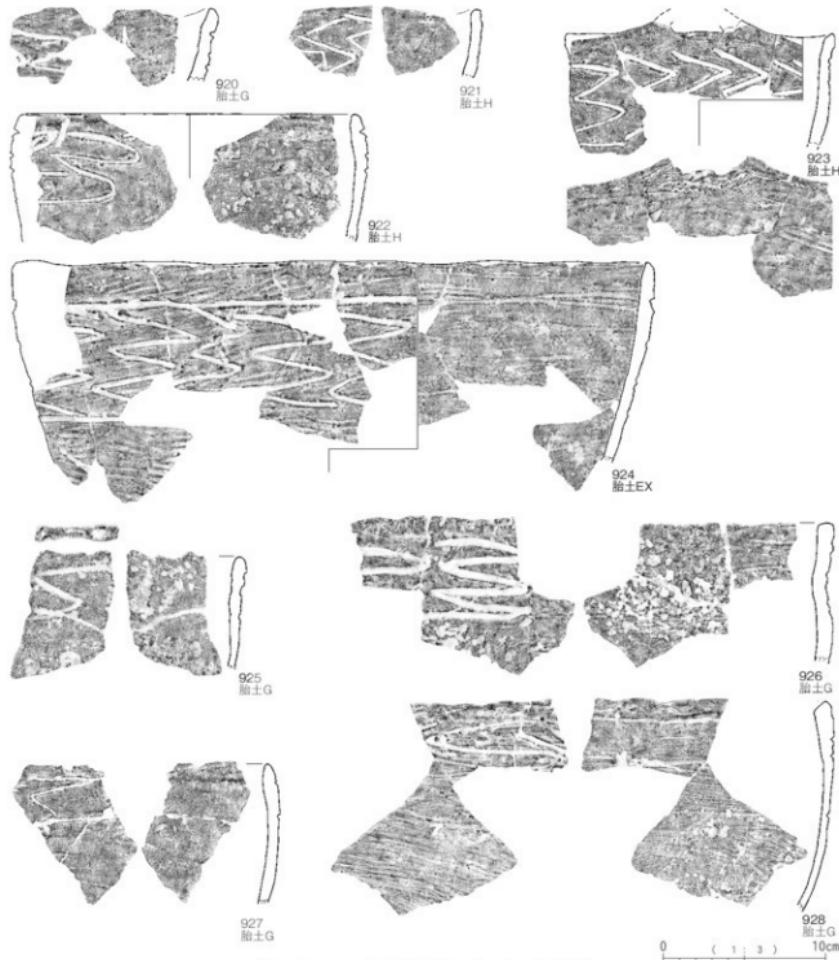
る。918は復元口径30cm程の深鉢形土器で、緩やかな波状口縁をなし、施文帯は広く全体の1/3程に達する。施文は2本1組の並行沈線文と鉤形文を基本に、口縁部直下に周回文、三角形文等が展開する。外面のほぼ全城と内面上位は丁寧なナデで仕上げられているが、内面の半分は粗い工具ナデ痕がそのまま残されている。胎土には大粒の凝灰岩粒や岩粒が目立ち、石英粒のほか角閃石が含まれる。なお、口縁部以下2/3程が黒褐色、底部までの1/3程が赤褐色を呈し、この変色域から胴部にかけてはススの付着がみられる。919は胴部資料で詳細は不明であるが、縦4本、横2本、斜め3本の並行沈線文で、規格性のある文様を構成する。器面は丁寧に撫でられて色調は肌色を呈し、胎土に含まれる小豆色の小粒子と雲母が特徴的である。

#### 11E類 S字の変形文

920は沈線文の下位にS字の変形文を施す資料である。921は継に並走するようにS字の変形文を施している。922は波状口縁で口唇部は丸く撫でられており、内窓する器形の鉢形土器とみられる。923は小型鉢形土器で、口径は16.3cm程とみられる。明かり窓付の突起部が作出された資料とみられるが頂部は失われている。口唇部の内側に沿って二枚貝腹縁部を横方向に1~2列刺突し、明かり窓の下にも2列刺突を施す。外面はS字の変形文を繰り返し施す。924も“く”字状に鋭角に屈曲するS字の変形文がみられる。復元口径39cmの大形土器であるが、総じて器壁は薄い。尖り気味の口唇部は工具で平坦に押さえ、外面は条痕仕上げ、内面は工具ナデ仕上げで、施文帯に限り軽く撫でを重ねている。施文帯を周回する最上位の沈線文の下位に、S字の変形文を施す。925では沈線文の下位に、S字の変形文を施す。926は胴部最大部と口径が近似する鉢形土器とみられ、施文は口縁端部から脇曲部にかけての狭い範囲に限られる。なお、口縁部が若干肥厚する傾向もみられ、S字の変形文を繰り返し施す。927は沈線文間にS字の変形文を施す。928の口唇部は内側に傾き、施文は細沈線で口縁直下に限られる。

#### 第54表 11類土器観察表(7)

標印No	地番	東北 No.	X座標	Y座標	深度	層位	グリット	胎土	備考
920	4906	18.073	47.696	144.892	B	B-5		G	
	4907	18.132	47.742	144.872	B	B-5		G	
921	4669	25.871	61.694	144.959	B	C-7	H		
922	4905	179.8	47.669	144.782	B	B-5	H		
923	4767	13.074	45.690	144.442	B	B-5	H		
	-B	0.000	0.000	0.000	I	B-5			
	3319	12.540	43.437	144.535	B	B-5			
924	12423	18.221	42.744	144.693	B	B-5		EX	
	16994	18.106	42.943	144.601	B	B-5			
	-B	0.000	0.000	0.000	I	B-5			
925	-B	0.000	0.000	0.000	B	B-9	G		
	9334	20.623	80.630	143.560	B	C-9			
926	11734	23.203	80.259	143.897	B	C-9	G		
	-B	0.000	0.000	0.000	I	B-2			
	17386	12.640	16.687	143.760	B	B-2			
927	-B	0.000	0.000	0.000	I	B-2	G		
	-B	0.000	0.000	0.000	B	B-2			
	16223	14.156	11.389	143.704	B	B-2			
928	16224	14.161	11.507	143.691	B	B-2	G		
	17192	14.177	11.935	143.679	B	B-2			



第136図 11E類土器実測図【S字の変形文】

11F類 並行沈線文

929は復元口径23.4cmの鉢形土器で、胴部上位で内湾し口縁部は直立する。口唇部は丸く撫でて仕上げられ、口縁部直下と胴部間の2本1組の並行沈線文間に短冊状文や渦巻文等の特徴的な沈線文が描かれる。中でも、短冊状文の右に描かれる渦巻文等の沈線文は、コズミックな、または人形文の表現を彷彿とさせる。器面調整は他に類を見ないほど丁寧で、器面は光沢を保ち、肌色を呈する薄い器壁と粒子の細かい胎土は特徴的である。930

は復元口径11cm程の小型深鉢形土器で、半截竹管状工具とヘラによる並行沈線文で文様を構成する。931は小型深鉢形土器で、口唇部は丸く撫でて仕上げられ、両面も共にナデ仕上となっているが、内面には輪積み痕を観察できる。932は復元口径27.4cmで口縁部は内湾し、器壁が厚く重量感がある鉢形土器である。器形や突起部の数等は不明である。2か所の突起上面とその間はヘラで刻みを施し、突起内側もV字状に短沈線を重ねる。器面の文様構成について的確に判断できないが、動物あるい

は昆虫を模したとも考えられる。933は復元口径17.2cmで、胴部以下には縱方向、内面は横方向のヘラナデ痕が残る。口唇部は工具で刻み、並走する沈線文と口縁部間も並行する短沈線で充填する。934はヘラで格子状に沈線文を施した資料である。935は復元口径25.8cm程の資料で、狭く尖り気味の口唇部は指頭で軽く押さえ、緩やかな波状口縁を形成する。施文は口縁部に集中し、内外面共に指押さえ調整痕が明瞭で、輪積み痕も明瞭に観察される。

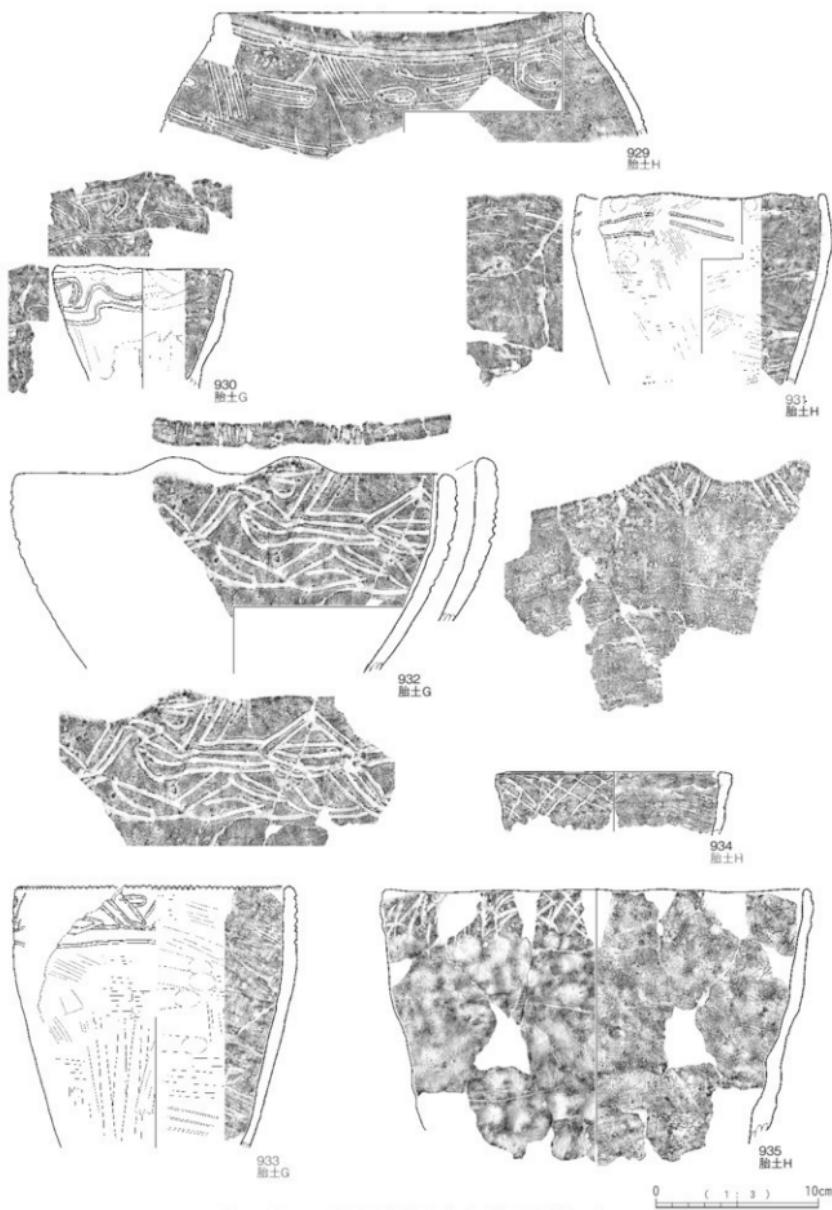
以下には11類土器の小破片を集約して掲載したが、936,937,938,939,940,941等は口唇部の形状から帰属について参考の余地がある。942の器形及び傾き等は不明である。937,936の器壁は薄い。943の内面は条痕仕上げで、944の口唇部には二枚貝で刻みが施されている。945,946,947は細沈線で各々類似する文様がみられ、947は外面から穿孔が施されている。948は並行する短沈線文で構成される。949は口縁部を周回する並行沈線文と、それに直結するC字状沈線文で構成される。950の口唇部は二枚貝で刻みが施されている。951,952,953の器壁は薄い。954は外面が縱方向、内面は横方向のヘラナデ調整で仕上げられている。955,956は口縁部を周回する並行沈線文とそれに直結するC字状沈線文で構成される。957,958は類似する資料である。959はやや厚手の器壁で重量感がある。960の器壁は薄い。961,962は2本並行沈線文が施文される資料である。963,964,965の口唇部形状は本類の特徴をよく示している。

966は二本並行沈線文を施された資料である。967は968,994と同一個体とみられる。969は口縁部が若干内弯する形状で、狭い口唇部には平坦面が形成される。広い施文帶には、並行する沈線文が施文される。970の口唇部には二枚貝で刻みが施されている。971の沈線文は浅い。972は復元口径18.4cmの緩やかな波状口縁土器で、開きながら直線的に立ち上がる。外面は丁寧なナデ仕上げ、内面は指捏ナデで調整されるが、輪積み痕は水平に数段残されている。口縁部に沿って、ヘラ書きの沈線文がみられる。973の沈線は若干細く、波頂部を起点に2本1組の並行沈線文を構成し、起点となる波頂部には対となる可能性が高い穿孔が残される。胎土の粒子は微細である。974は特に上下2本の並行沈線文で文様を構成するもので、復元口径は26cmで低い波頂部を持つ鉢形土器である。最大径は胴部にくる。施文は波頂部を起点に2本1組の並行する細沈線文を基本とするが、現存部分では左右対称とはならないようである。なお、波頂部上面にはヘラで刻みが施され、内側にも施文されている。特に施文帶は丁寧に撫でられ、胎土に含まれる小豆色の粒子が印象的である。

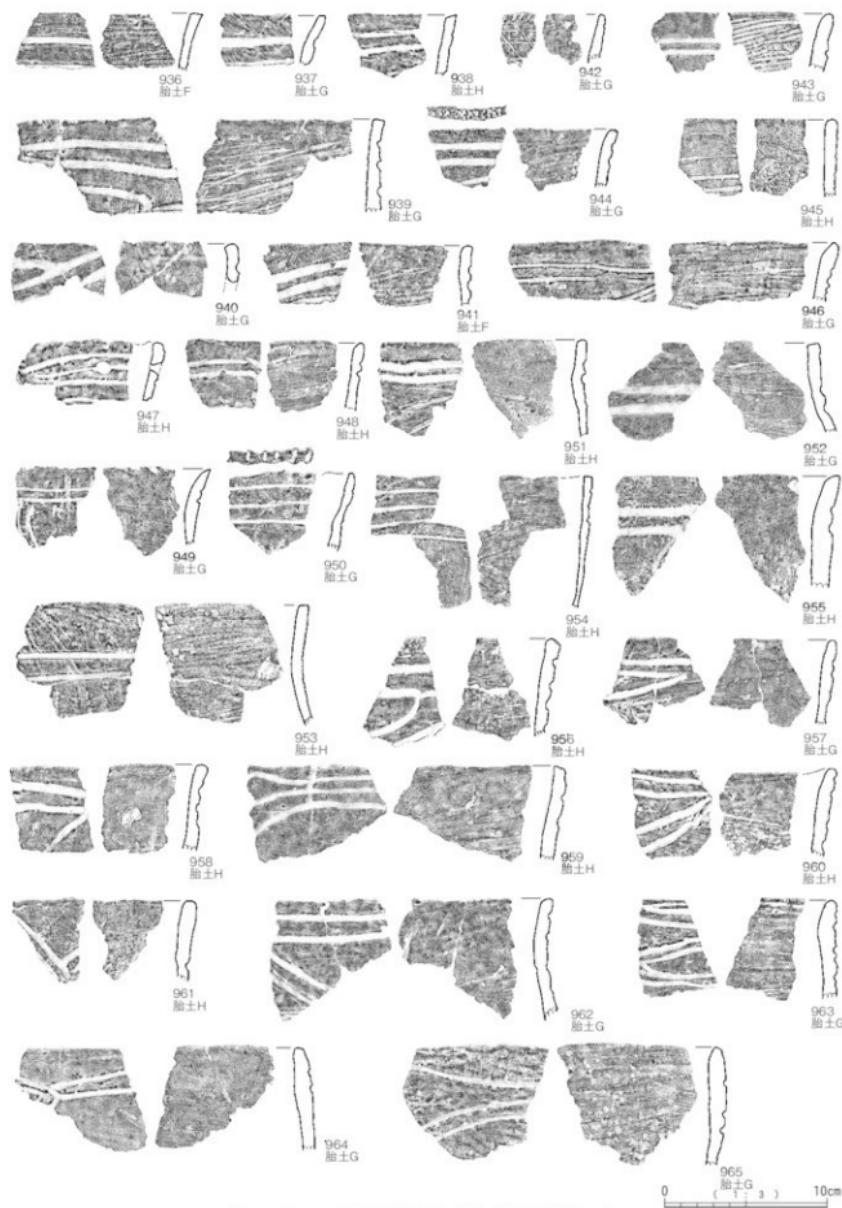
975は細く鋭利な工具で、器壁は薄く両面とも入念なナデ仕上げが施されている。狭い口唇部はヘラで刻みが施されている。976の口唇部内側はヘラでシャープに撫でられている。981,982,983の器壁は薄い。984は沈線が



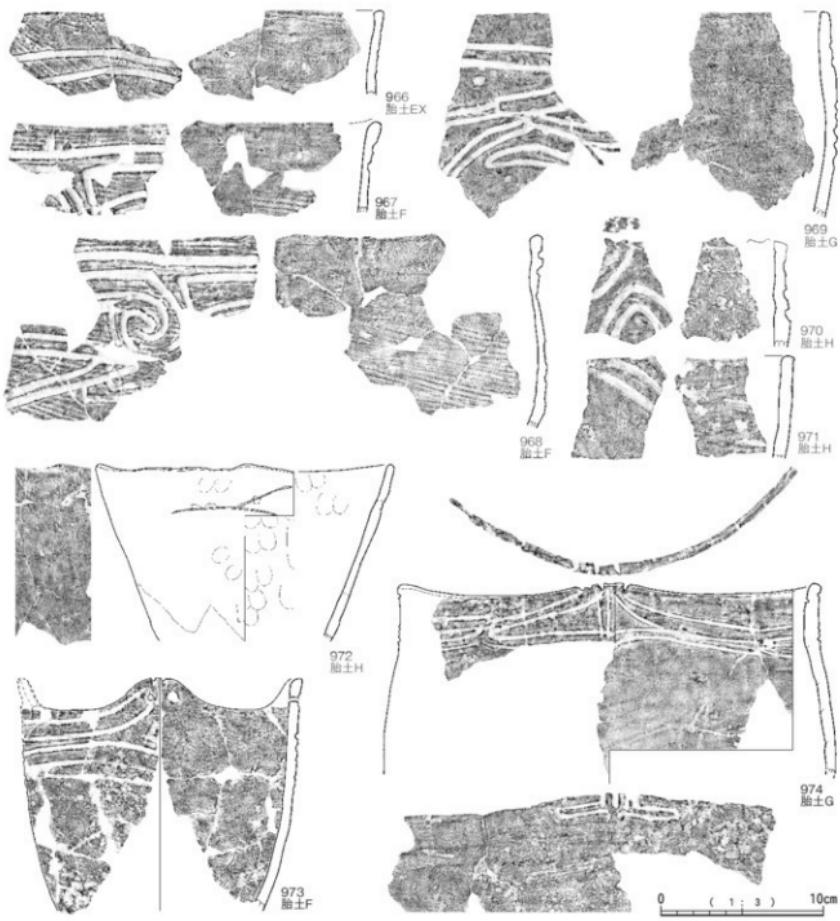
第137図 11F 類土器分布図



第138図 11F 類土器実測図（1）【並行沈線文 1】



第139図 11F 類土器実測図 (2) 【並行沈線文2】



第140図 11F類土器実測図(3)【並行沈線文3】

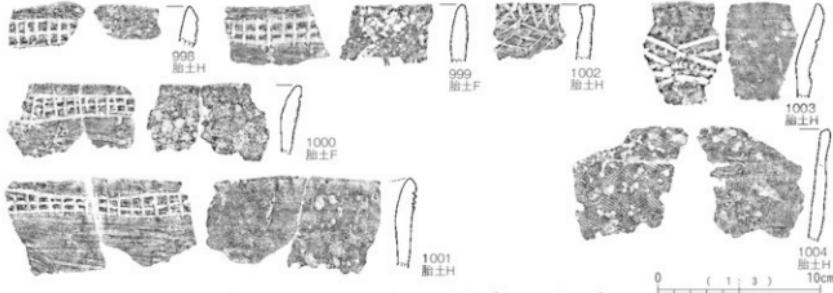
細く、器壁は厚く重量感がある。胎土には大粒の凝灰岩粒や小豆色の小粒子を含む。985,986の内面施文は本類の特徴を示すものである。987は並行する短沈線文で構成される。988,989は波頂部の破片である。990は並行する短沈線文で文様を構成し、明かり窓を設け、内側は窓を菱形文で囲み、外側は並行沈線文を鋸歯状に重ねている。991,992の文様は類似する。993の器面調整は丁寧である。994は明かり窓を備えた山形突起を備え、その上面には二枚貝をランダムに刺し突し、口縁部を周回する2本の沈線文を含め下位の渦巻文等全てがやや広めの並行沈線文で構成される。長石粒を多く含む胎土を使用し、

条痕仕上げの薄い器壁にそのまま施文を行う。995は胎土及び器面調整等が994に類似する。996も994と同一個体とみられる。997は器壁が薄い。

998,999,1000,1001の4点は大粒の凝灰岩粒や砂粒の多い胎土を使用する点で共通し同一個体の可能性が高い資料であるが、並走する3本の沈線文とそれに直行する短沈線の先後関係は安定しておらず、場所により異なりながら格子状文を構成する。1002は口縁部である。1003は並行する短沈線文で文様を構成する。1004も並行沈線文を交差させ、格子状文を構成する。



第141図 11F 類土器実測図(4)【並行沈線文4】



第142図 11F類土器実測図(5)【並行施線文5】

11G類 二枚貝腹縁刺突文

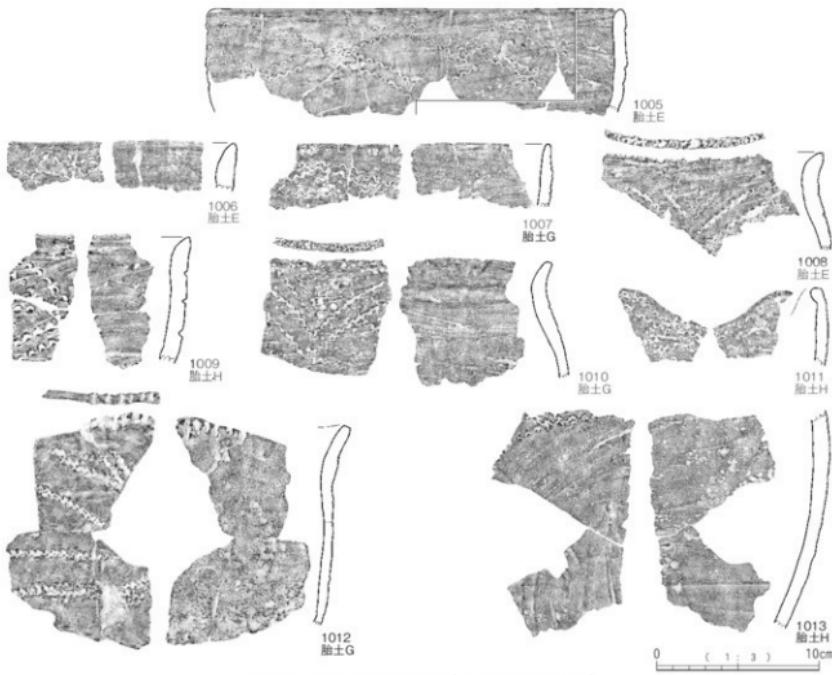
1005は復元口徑5.6cmで、口唇部は丸く撫でて仕上げられる。文様は2本1組の二枚貝刺突文で菱形文を構成する。内面のヘラナデ痕が明瞭で、胎土に含む石英や長石、小豆色の粒子の移動痕跡もよく観察できる。1006は

第55表 11類土器観察表(8)

測定No.	回No.	記No.	X座標	Y座標	Z座標	部位	クリップ	胎土	備考
929	4576	20.661	58.801	144.825	Ⅲ	C-6			
	4587	23.734	60.396	144.921	Ⅲ	C-7			
	4588	23.629	60.446	144.893	Ⅲ	C-7			
	8199	23.735	60.443	144.890	Ⅲ	C-7			H
	13392	22.757	61.606	144.812	Ⅲ	C-7			
	13393	22.810	61.491	144.720	Ⅲ	C-7			
	13394	22.840	61.443	144.725	Ⅲ	C-7			
	900	—	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	G	
	4528	22.837	57.722	144.913	Ⅲ	C-6			
	8091	22.802	57.642	144.896	Ⅲ	C-6			
	8092	22.898	57.618	144.873	Ⅲ	C-6			H
931	12502	22.823	57.621	144.880	Ⅲ	C-6			
	—B	0.000	0.000	0.000	I	C-6			
	—B	0.000	0.000	0.000	I	C-6			
	14274	14.664	9.351	143.751	Ⅲ	B-1			
	16134	16.247	9.078	143.890	Ⅲ	B-1			
	17094	15.906	9.017	143.607	Ⅲ	B-1			G
	—B	0.000	0.000	0.000	I	B-1			
	4527	22.766	57.663	144.910	Ⅲ	C-6			
	4529	22.903	57.686	144.915	Ⅲ	C-6			
	4530	23.085	57.731	144.930	Ⅲ	C-6			
932	4531	23.160	57.796	144.930	Ⅲ	C-6			
	4570	22.263	57.198	144.843	Ⅲ	C-6			
	8089	23.128	57.378	144.872	Ⅲ	C-6			
	8090	23.027	57.507	144.850	Ⅲ	C-6			
	8094	23.145	57.697	144.890	Ⅲ	C-6			
	934	15798	23.054	69.021	143.431	Ⅲ	C-9	H	
	935	10279	23.346	23.484	144.813	Ⅲ	C-3	H	
	—B	0.000	0.000	0.000	I	C-3			
933	936	8136	22.516	59.518	144.818	Ⅲ	C-6	F	
	937	18246	18.829	87.827	143.139	Ⅲ	B-9	G	
	938	38196	10.963	39.326	142.420	Ⅲ	B-4	H	
	939	79	26.480	79.990	144.342	Ⅲ	C-8	G	
	9343	53404	26.050	81.797	144.065	Ⅲ	C-9		
	940	627	20.719	85.997	143.474	Ⅲ	C-9		
	941	3168	21.087	88.150	142.360	Ⅲ	C-9		
	942	17264	15.395	143.980	143.966	Ⅲ	B-2	F	
	943	5744	18.141	80.215	143.394	Ⅲ	B-9	G	
	944	5364	26.968	88.920	144.156	Ⅲ	C-9		
934	945	14067	24.244	84.789	143.696	Ⅲ	C-9	H	
	946	14380	20.011	41.123	143.509	V	C-5	G	
	947	—B	0.000	0.000	0.000	I	C-10	H	
	948	8206	25.329	60.274	144.878	Ⅲ	C-7	H	
	949	—B	0.000	0.000	0.000	I	A-8.4.5	G	
	950	18293	18.665	85.398	142.969	Ⅲ	B-9	G	
	951	15580	19.682	83.203	143.111	Ⅲ	B-9	H	
	952	—B	0.000	0.000	0.000	I	C-9	G	

第56表 11類土器観察表(9)

測定No.	回No.	記No.	X座標	Y座標	Z座標	部位	クリップ	胎土	備考
139	963	—B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	H	
	964	—B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-10	H	
	965	14108	22.668	82.565	143.634	Ⅲ	C-9	H	
	966	6443	17.645	86.138	142.981	Ⅲ	B-9	H	
	967	12019	19.167	89.922	143.416	Ⅲ	B-9		
	968	9289	23.074	82.486	143.747	Ⅲ	C-9	H	
	969	13998	27.320	91.743	143.880	Ⅲ	C-10	H	
	970	4190	20.712	86.205	143.343	Ⅲ	C-9	H	
	971	17238	17.265	13.811	143.966	Ⅲ	B-2	H	
	972	2866	20.980	34.167	144.893	Ⅲ	C-4	G	
973	9902	19.009	35.168	144.664	Ⅲ	B-4			
	960	2847	20.394	35.603	144.870	E	C-4	G	
	964	4626	23.363	61.633	144.881	E	C-7	G	
	972	23.090	61.561	144.778	E	C-7			
	965	16567	15.180	29.283	144.276	E	B-3	G	
	966	19047	20.072	87.904	143.097	E	C-9		EX
	967	—B	0.000	0.000	0.000	E	B-9		
	968	15565	18.928	64.892	143.072	E	B-9		F
	969	13634	21.717	82.206	143.602	E	C-9		F
	970	15899	23.136	86.224	143.424	E	C-9	G	
974	970	61018	12.029	10.607	143.371	E	B-2	H	
	971	—B	0.000	0.000	0.000	E	C-10	H	
	948	25.711	83.129	144.234	E	C-9			
	9641	25.493	83.431	143.943	E	C-9			
	9679	26.249	82.818	143.914	E	C-9			
	10814	26.343	32.821	143.881	E	C-9			
	11563	25.857	84.028	143.803	E	C-9			
	11564	25.761	84.056	143.788	E	C-9			
	11594	26.210	82.003	143.862	E	C-9			
	11602	25.012	82.451	143.666	E	C-9			
975	13998	25.737	94.021	143.796	E	C-9			
	13962	26.468	82.960	143.849	E	C-9			
	14021	20.132	78.965	143.802	E	C-8			
	12964	14.199	18.654	144.106	E	B-2			
	16335	16.835	16.161	144.184	E	B-2			
	16337	16.913	16.099	144.201	E	B-2			
	17210	13.355	12.928	143.634	E	B-2			
	19263	11.360	14.328	143.491	E	B-2			
	974	—B	0.000	0.000	0.000	E	B-2		



第143図 11G類土器実測図【二枚貝腹縁刺突文】

突文が施されている。1012の器壁は薄く、口縁部は外反する。

1013の形状及び傾き等は明らかでないが、外面の

第57表 11類土器観察表(10)

種別	形	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	胎土	備考
975	5874	23.305	62.912	143.893	II	C-9	G		
976	12443	18.245	39.837	144.451	複数	B-4	G		
977	13999	27.584	91.865	143.814	III	C-10	H		
978	733	26.591	83.941	144.191	II	C-9	F		
979	6022	21.286	78.799	143.820	II	C-8	H		
980	4775	14.172	46.156	144.597	II	B-5	H		
981	2822	20.704	36.416	144.903	II	C-4	H		
982	7296	21.363	79.921	143.761	II	C-8	H		
983	1925	17.015	81.731	143.237	II	B-9	G		
984	12837	13.171	16.999	143.967	II	B-2	G		
985	7728	22.672	33.633	144.804	II	C-4	E		
986	9786	22.713	33.611	144.787	II	C-4	E		
987	4908	18.554	48.074	144.794	II	B-5	F		
988	-B	0.000	0.000	0.000	II	C-9	F		
989	14631	24.051	20.982	144.679	II	C-9	H		
990	12429	18.864	42.927	144.662	II	B-5	G		
990	12866	15.993	17.215	144.262	II	B-2	G		
991	2209	18.530	78.000	143.531	II	B-6	F		
992	2273	17.424	70.536	144.248	II	B-6			
993	2136	26.244	69.530	144.870	II	C-7			
994	6010	26.276	69.514	144.863	II	C-7	G		
995	5494	20.209	88.540	143.564	II	C-9	F		
996	5496	20.654	88.581	143.571	II	C-9	F		
997	-B	0.000	0.000	0.000	II	C-9	H		
998	8723	24.477	81.572	143.954	II	C-9	H		
999	10889	23.368	81.505	143.817	II	C-9	H		
1000	15564	18.854	84.799	143.050	II	B-9	F		
1001	-B	0.000	0.000	0.000	II	B-9	H		
1002	18252	19.366	86.122	143.164	II	B-9	H		

ヘラ削りは特徴的といえる。

第58表 11類土器観察表(11)

種別	形	取上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	胎土	備考
142		998	-B	0.000	0.000	0.000	E	B-3	H
		999	15090	15.995	14.388	144.100	II	B-2	F
		1000	16	12.248	42.659	0.000	I	B-5	F
		1001	76	25.218	79.889	0.000	E	C-6	
		1002	2754	19.388	36.548	144.101	II	B-4	H
		1003	2768	19.953	36.007	144.817	II	B-4	H
		1004	6079	22.803	77.938	144.046	II	C-8	H
		1005	4324	20.656	46.908	144.840	II	C-5	
		1006	4787	16.665	45.560	144.705	II	B-5	
		1007	13238	18.400	43.629	144.626	II	B-5	E
		1008	15432	17.883	45.019	144.537	II	B-5	
		1009	-B	0.000	0.000	0.000	I	B-5	
		1010	13240	16.756	44.115	144.664	II	B-5	E
		1011	-B	0.000	0.000	0.000	II	B-1	
		1012	16247	17.175	13.018	144.095	II	B-2	G
		1013	4585	24.678	60.705	144.907	II	C-7	E
		1014	8212	25.215	60.859	144.904	II	C-7	
		1015	4841	14.739	46.927	144.648	II	B-5	G
		1016	12690	16.653	11.588	143.983	II	B-2	H
		1017	14431	24.610	91.259	143.670	II	C-10	
		1018	15940	21.649	84.205	143.234	II	C-9	
		1019	-B	0.000	0.000	0.000	II	C-10	G
		1020	8082	23.993	56.833	144.891	II	C-6	H
		1021	8120	25.373	59.236	144.805	II	C-6	



## 12類 無文土器

文様を持たない土器で、深鉢形土器と鉢形土器がある。基本的には、5類～7類及び10類～13類土器に帰属すると思われるが、各分類への帰属は難しい。そのため、口縁部が肥厚するものをA類、それ以外をB類とした。特に、A類については、熊本県黒崎貝塚や出土市町内遺跡、日置市上ノ平遺跡等を周知事例を参考に抽出を試みた。

### 12A類

1014,1015はともにねじり紐を貼付けた突起部を作出した資料で、特に1014の内側の器面は光沢を保っている。1016,1017は同一個体で、復元口径は27cmである。口唇部は平坦で口縁部は外に開き、胴部上位が若干丸味をもつ。なお、口唇部には部分的に低い台形状若干突起が設けられており、上面は指頭で刻まれている。胴部上位と屈曲部及び口縁部のそれに輪積み痕が残され、いわゆる見せかけの肥厚口縁となる。1018,1019も見せかけの肥厚口縁である。1020,1021の口唇部は指頭により凹点文が施されている。1022の口縁部は肥厚し、口唇部も指頭凹点文が施されており、焼成はやや軟質で重量感は軽量である。1023は口縁部が若干肥厚した鉢形土器で、ねじり紐1本分の突起部は鋸歯状に刻みが施され、器面は赤褐色を呈して胎土に白色粒子を多く含む。1024は胴部上部から口縁部が直行弯曲する形状で、低い台形状突起を設け、上面に刻みを施している。1025は波状口縁の可能性の高いもので、施文帯以下はヘラ削りで調整し、施文帯は肥厚する。1026,1027は類似する資料で胴部はヘラ削りで調整され、施文帯は肥厚し、やや幅広の口唇部には指頭凹点文が施される。器面はやや桃色を帯びた色調で、軟質の仕上がりを見せる。1021の内面は丁寧に撫でて仕上げられているが、突起部と屈曲部では輪積み痕が観察できる。1021,1023の口縁部の輪積み製作痕跡は酷似している。

### 12B類

1028は内湾する器形で、両面とも条痕仕上げとなっている。1029は胴部以下は縱方向のナデがみられ、18cm程の口径が復元される。1030は復元口径22.8cmの深鉢形土器で、外面には約2.5cm幅の粘土紐の輪積み痕跡が明瞭に残されているが、内面は工具で丁寧に撫でて仕上げられている。口唇部は緩やかな波状を呈し、指頭で押圧されており絶じて器壁は薄い。外面では、胴部上部から口縁部にススが付着し、内面では胴部下部から底部にかけて炭化物が付着する。1031は調整が丁寧で、器面は光沢を保つほど丁寧に撫でられている。1032は復元口径24cm程の深鉢形土器で、口縁部は緩やかに外反し、屈曲部には指押さえ痕が明瞭に残る。1033は復元口径は28.2cmで、丸味を呈する口唇部の内側から口唇端部にかけてはナデ、他の部分では工具ナデによる粒子の移動が観察できる。また、内面は赤褐色を呈するが外面はスス等の付着がみとめられ、器面は黒褐色を呈する。胎土には小豆色の粒子が特徴的に含まれる。

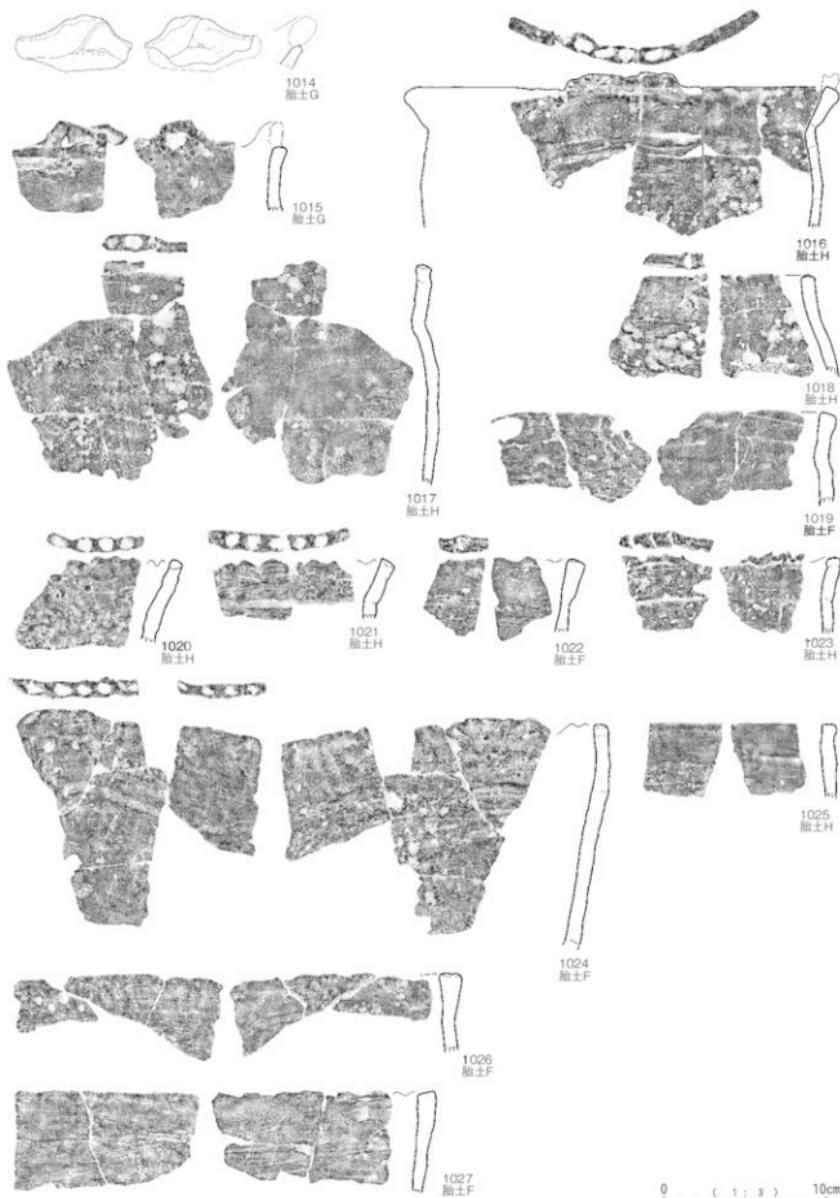
第144図 11G類土器分布図



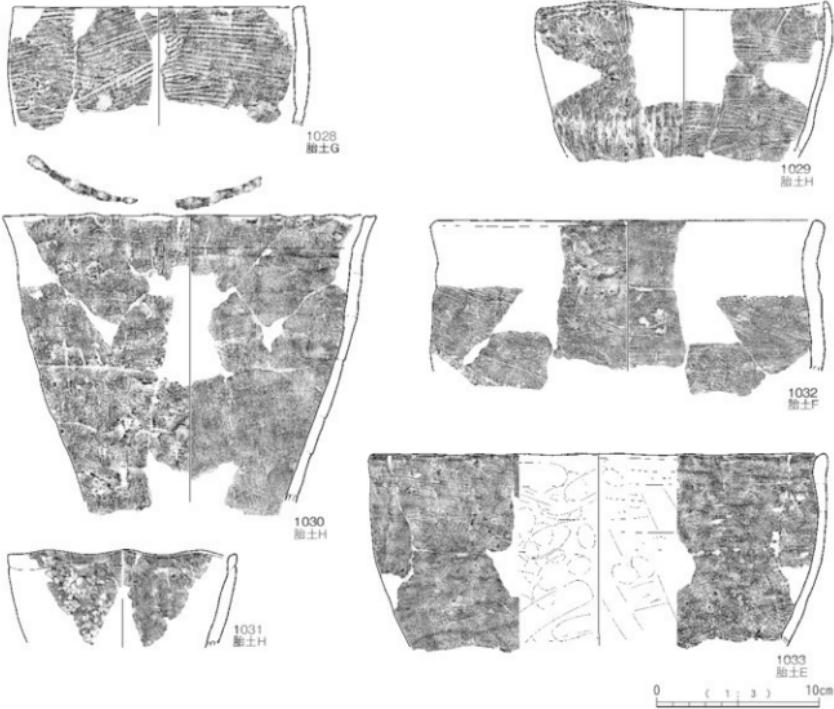
第145図 12A 類土器分布図



第146図 12B 類土器分布図



第147図 12A 類土器実測図



第148図 12B 類土器実測図 (1)

第59表 12類土器観察表 (1)

標印No.	回数	取上No.	X座標	Y座標	Z座標	位置	グリッド	胎土	備考
1014	18366	21.417	85.096	143.161	III	C9	G		
1015	18978	16.329	84.726	142.615	III	B9	G		
	10618	19.696	80.522	143.480	III	B9			
1016	13702	20.118	80.277	143.462	III	C9	H		
	15665	18.889	80.196	143.357	III	B9			
	-B	0.000	0.000	0.000	III	B8			
1017	11783	24.741	80.229	143.938	III	C9	H		
	13732	24.477	80.394	143.946	III	C9	H		
	4246	19.896	86.884	143.196	III	B9	H		
1018	14045	27.423	85.602	143.741	III	C9	F		
	1020	14117	23.665	83.654	143.636	III	C9	H	
	-B	0.000	0.000	0.000	III	C9	H		
1021	-B	0.000	0.000	0.000	III	C10	H		
1022	17889	23.479	90.690	143.579	III	C10	F		
1023	3480	23.089	85.795	145.875	III	C9	H		
1024	14123	24.279	83.304	143.660	III	C9	F		
	-B	0.000	0.000	0.000	III	C9	F		
1025	-B	0.000	0.000	0.000	III	B9	H		
	1773	25.056	77.818	144.284	III	C8			
1026	11999	23.880	77.355	143.956	III	C8	F		
	-B	0.000	0.000	0.000	III	C8	F		
1027	11122	23.688	79.567	143.952	III	C8	F		
	11955	24.139	77.544	144.104	III	C8			
	260	21.952	83.629	143.947	III	C9			
1028	13648	22.579	82.812	143.700	III	C9	G		
	-B	0.000	0.000	0.000	III	C9			
1029	18851	22.938	30.410	144.790	III	C4	H		
	18867	23.428	30.294	144.731	III	C4			

第60表 12類土器観察表 (2)

標印No.	回数	取上No.	X座標	Y座標	Z座標	位置	グリッド	胎土	備考
1029	19321	23.352	30.249	144.714	III	C4		H	
	19322	23.394	30.189	144.736	III	C4			
	1110	26.149	93.902	144.570	III	C10			
	3366	24.369	93.436	144.216	III	C10			
	5185	26.131	93.436	144.248	III	C10			
	5758	26.623	95.253	144.212	III	C10			
	7892	18.817	87.598	142.979	III	B9			
	8282	26.573	94.502	144.220	III	C10			
	10559	26.190	94.531	144.146	III	C10			
	10560	26.463	94.650	144.195	III	C10			
	12071	26.416	94.691	144.238	III	C10			
	16774	26.474	94.740	144.152	III	C10			
	16775	26.562	94.809	144.156	III	C10			
	16776	26.503	94.740	144.147	III	C10			
	16778	26.677	94.667	144.149	III	C10			
	16779	26.990	95.131	144.241	III	C10			
	17885	26.540	94.770	144.141	III	C10			
	17886	26.561	95.132	144.096	III	C10			
	-B	0.000	0.000	0.000	III	C10			
1031	5860	26.059	78.793	144.263	III	C8		H	
	11155	26.097	78.696	144.148	III	C8			
	19925	16.469	83.243	142.542	III	B9			
	-B	0.000	0.000	0.000	III	B8			
	-B	0.000	0.000	0.000	III	B9			
1032	4709	25.984	63.745	144.876	III	C7			
	4711	25.924	63.862	144.896	III	C7			
	8269	25.934	63.936	144.803	III	C7			
	-B	0.000	0.000	0.000	III				

147

148



第149図 12B類土器実測図（2）

1034は内外面共に丁寧なナデ仕上げで口縁部は大きく開く。1035,1036,1037,1038,1039,1040は台形状突起をもつもので、1040は胎土に小豆色の粒子を含む。1042は角状突起をもつ。1043は突起が剥落し、器壁は極めて薄い。

1044も小型深鉢形土器の可能性が高い。1045の台形状突起にはススの付着がみられる。1046は台形状突起をもつもので、外面にはススの付着がみられ、内面には輪積み痕も残る。1047は上面に深い刻みを施す。1048は台形状

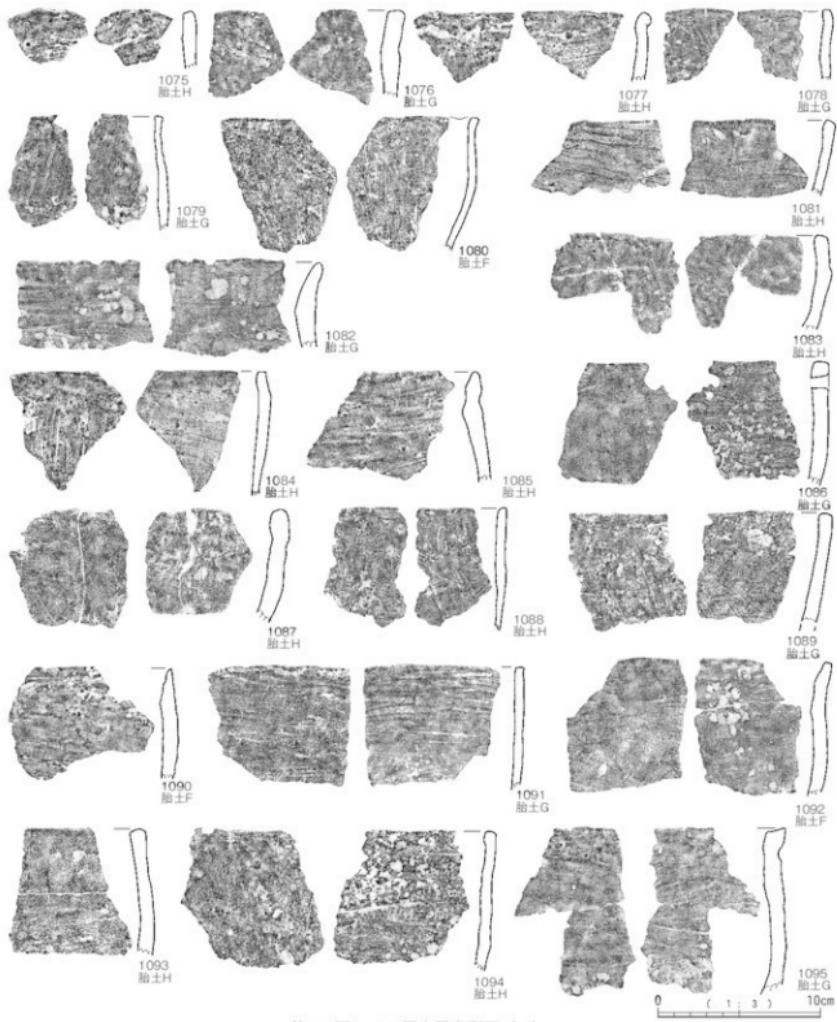


第150図 12B類土器実測図(3)

突起を備える。1049は鉢形土器の可能性が高く、屈曲部の指揮さえがそのまま残されている。1050の胎土は黒色、鉱物が特徴的である。1051は上面に深い刻みが施される。1052は台形状突起で上面は工具で刻み、胎土には石英粒が目立つ。1053は突起中央部を工具で深く刻んでいる。1054はほぼ直行する口縁部で、ねじり紐を貼付けて突起を作成する。内面は丁寧なナデにより仕上げられている。

1055は平坦な口唇部に部分的に刻みを施し、器壁は薄い。1056.1057.1058.1059.1060.1061は平坦な口唇部に刻みを施す。1057の胎土には白色鉱物が多量に含まれる。

1062は器壁は厚いが、小型土器とみられる。1061の器壁は薄い。1063は輪積みの接合部で剥落する。1064は傾き等詳細は不明であるが、粘土紐の貼り足しによって作成された低い突起部の上面に二枚貝による刻みが施されている。1065.1066は平坦な口唇部に部分的に刻みを施している。1067は平坦な口唇部に刻みを施したものである。1068は条纹土上げをそのまま残し、胎土には、大粒の岩粒を他に例を見ないほど大量に含む。1070には横方向のヘラナデがみられる。1071は器面に条痕を残す。1072は口縁部が外反し、外面は縱方向、内面は横方向の粗い条



第151図 12B類土器実測図(4)

痕を残し、器壁は薄い。1073の口唇部は巻貝殻頂部転圧文とみられる。1074は器形や傾きは不明であるが器壁が薄い硬質土器で、波頂部の低い波状口縁をなす。内面には多数のヘラナデ痕が残る。また、胎土には白色粘物と小豆色の粒子、大粒の岩粒が含まれ特徴的である。

1075は台形状突起をもつ資料で、外面にはススの付着がみられる。1076の器壁は厚く、口唇部は平坦で、指押

さえで仕上げられた深鉢形土器である。1077は最後の輪積みが内外面に残る。1078,1079,1080は小型深鉢形土器である。1081は横向方向のヘラナデがみられる。1082の口縁部内側は外反し薄くなり、尖り気味の形状となる。

1083は輪積み痕と指押さえ痕が明瞭である。1084は口縁部直下のみが工具の横ナデで、他は縱ナデである。1085はヘラの横ナデ調整である。1086は大型土器に属し、器



第152図 12B類土器実測図(5)

面からの穿孔が残る。1087は器壁の厚さが不揃いで粗製土器の感がある。1088は小型深鉢形土器で、条痕仕上げをそのまま残す。1089は平坦な口唇部に刻みを施す。1090は内面に条痕を残す。1091は大型土器に属するが器壁は薄い。砂粒の多い胎土が使用され、器面はザラザラした質感を呈している。1092は胎土に角閃石が混入しているのが特徴である。1093は内面と外面の上部は丁寧に撫でられ、下部は工具ナデで仕上げられている。1094

は大型土器で風化が激しい。1095の器壁は厚く、口唇部は平坦である。指押さえ仕上げの深鉢形土器である。

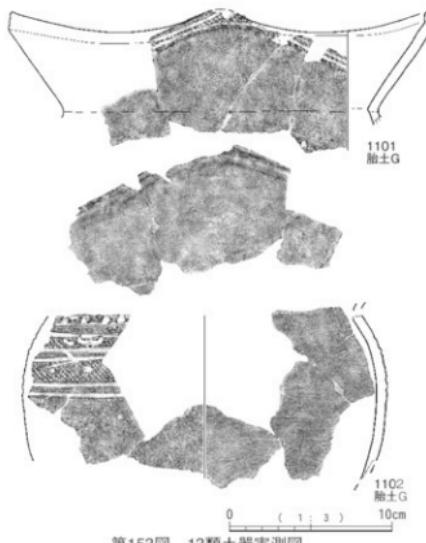
1096は器壁の厚さが不揃いで、粗製土器の感がある。1097は条痕による施文意識を感じられる資料である。1098は器形等詳細は不明であるが、特徴的に口唇端部を押える。1099と1100については、その部位及び傾き等が不明な資料である。

第61表 12類土器観察表(3)

件名	地名	出土No.	X座標	Y座標	標高	層位	グリッP	胎土	備考
1034	8414	22,365	79,506	143,854	III	C-8	H		
1035	7748	22,370	79,866	144,765	III	C-4	H		
1036	4824	16,963	46,167	144,698	III	B-5	G		
1037	一組	0,000	0,000	0,000	III	B-9	H		
10405	14,593	16,555	144,122	III	B-2	F			
1038	14945	14,047	16,431	144,006	III	B-2			
1039	18,659	12,567	9,589	143,389	III	B-1	G		
1040	18,472	20,139	87,542	143,174	II	C-9	G		
1041	一組	0,000	0,000	0,000	II	C-9	H		
1042	17,040	24,281	63,212	144,635	II	C-7	F		
1043	38,371	9,894	42,474	144,243	II	A-5	G		
1044	5892	25,102	76,012	144,401	II	C-6	H		
1045	5605	21,305	81,016	143,706	II	C-9	G		
149	13,221	13,322	47,422	144,491	III	B-5	G		
1046	一組	0,000	0,000	0,000	III	B-5			
1047	17,736	26,176	79,489	144,329	III	C-8	H		
1048	13,474	17,136	81,328	143,147	III	B-9	E		
1049	17,077	13,146	9,651	143,503	III	B-1			
1050	18,542	12,976	9,710	143,415	II	C-1	H		
1051	18,543	13,008	9,781	143,433	II	B-1			
1052	15,26	23,798	76,844	144,251	II	C-8	F		
1053	9431	20,832	79,342	143,641	III	C-8	H		
1054	6371	17,273	72,839	144,063	II	B-8	H		
1055	1748	25,969	78,829	144,341	III	C-8			
1056	7472	22,975	79,977	143,956	II	C-8	F		
149	1055	一組	0,000	0,000	0,000	B-9	H		
1056	一組	0,000	0,000	0,000	B-8	C-8	H		
1057	13,610	22,289	64,244	143,517	II	C-9	F		
1058	622	20,648	85,992	143,490	II	C-9	H		
1059	一組	0,000	0,000	0,000	II	C-10	H		
1060	18,695	18,456	85,535	142,886	II	B-9	H		
1061	一組	0,000	0,000	0,000	III	B-3	H		
1062	14,202	21,747	78,580	143,689	II	C-8	H		
1063	一組	0,000	0,000	0,000	III	C-10	H		
1064	一組	0,000	0,000	0,000	III	B-9	H		
1065	16,011	23,807	78,793	143,692	III	C-8	H		
1066	5831	25,908	79,093	144,257	III	C-8	F		
1067	4492	24,660	54,967	144,934	III	C-6	G		
1068	一組	0,000	0,000	0,000	III	B-9	H		

第62表 12類土器観察表(4)

件名	地名	出土No.	X座標	Y座標	標高	層位	グリッP	胎土	備考
149	1069	7703	21,228	34,896	144,801	II	C-4	H	
	1070	2875	20,328	33,699	144,852	II	C-4	H	
	1071	8225	24,056	62,597	144,789	II	C-7	G	
	1072	一組	0,000	0,000	0,000	II	B-9	H	
	1073	1189	22,706	34,272	144,610	II	C-4	H	
	1074	9818	21,206	34,928	144,763	II	C-4	G	
	1075	14,008	25,945	89,098	143,653	II	C-9	G	
	1076	15136	14,780	15,752	144,012	II	B-2	G	
	1077	一組	0,000	0,000	0,000	II	C-10	H	
	1078	2501	20,622	18,579	144,650	II	C-2	G	
	1079	16,381	21,262	11,900	144,074	II	C-2	G	
	1080	一組	0,000	0,000	0,000	II	C-9	F	
	1081	3162	21,741	86,437	143,419	II	C-9	H	
	1082	一組	0,000	0,000	0,000	II	C-9	G	
	1083	12,890	15,661	17,719	144,235	II	B-2	H	
	1084	14,977	0,000	0,000	0,000	II	B-2	H	
	1085	4722	25,496	64,068	144,855	II	C-7	H	
	1086	11,766	24,152	80,535	143,949	II	C-9	G	
	1087	9262	20,102	84,542	143,455	II	C-9	G	
	1088	19,936	17,023	79,785	143,236	II	B-8	H	
	1089	7739	21,599	31,733	144,870	II	C-4	G	
	1090	4662	24,090	62,839	144,883	II	C-7	F	
	1091	7811	23,829	37,069	144,827	II	C-4	G	
	1092	1386	21,169	79,211	143,762	II	C-9	F	
	1093	一組	0,000	0,000	0,000	II	C-10	H	
	1094	9611	23,625	19,858	144,348	II	C-2	H	
	1095	2873	20,310	33,339	144,825	II	C-4	G	
	1096	2913	20,234	32,859	144,814	II	C-4	G	
	1097	14,449	21,977	90,882	143,467	II	C-10	H	
	1098	一組	0,000	0,000	0,000	II	C-8	G	
	1099	2742	19,974	37,828	144,720	II	B-4		
	1099	7651	20,041	37,963	144,676	II	C-4		
	1099	9884	19,903	37,779	144,706	II	B-4		
	1099	一組	0,000	0,000	0,000	II	B-4		
	1100	4429	25,307	51,376	144,932	II	C-6	H	



第153図 13類土器実測図

### 13類 西式土器

1101は波状口縁の西式土器で、1102とは接合はないが同一個体と判断している。丸く膨らむ胴部から頸部で締まり、頸部から直線的に大きく外反して口縁部を形成し、さらに、口縁端部は“く”の字に内側に屈折する。その屈折面に繩文を転がし、2本の沈線文で繩文を断ち切る。屈曲部には連続して四点文を施し、胴部上部に先行施した繩文を沈線文や半月状の凹線文で撫で消す。沈線文外の磨消は丁寧に行われ、特に内面の器面調整は丁寧なハラナデや磨きがみられる。

### 第63表 13類土器観察表

測定No.	測定No.	取上No.	X座標	Y座標	Z座標	測位	グリッド	施土	備考
1101	2346	21.402	82.988	143.763		E	C9		
	14597	19.793	83.454	143.280		II	B9		
	18302	19.012	85.456	143.069		II	B9		
	-E	0.000	0.000	0.000		E	C9		
	-E	0.000	0.000	0.000		E	B9		
1102	5462	18.518	86.148	143.084		II	B9		
	15960	18.210	84.901	143.036		II	B9		
	16602	16.835	84.812	142.868		II	B9		
	-E	0.000	0.000	0.000		E	B9		



第154図 13類土器分布図

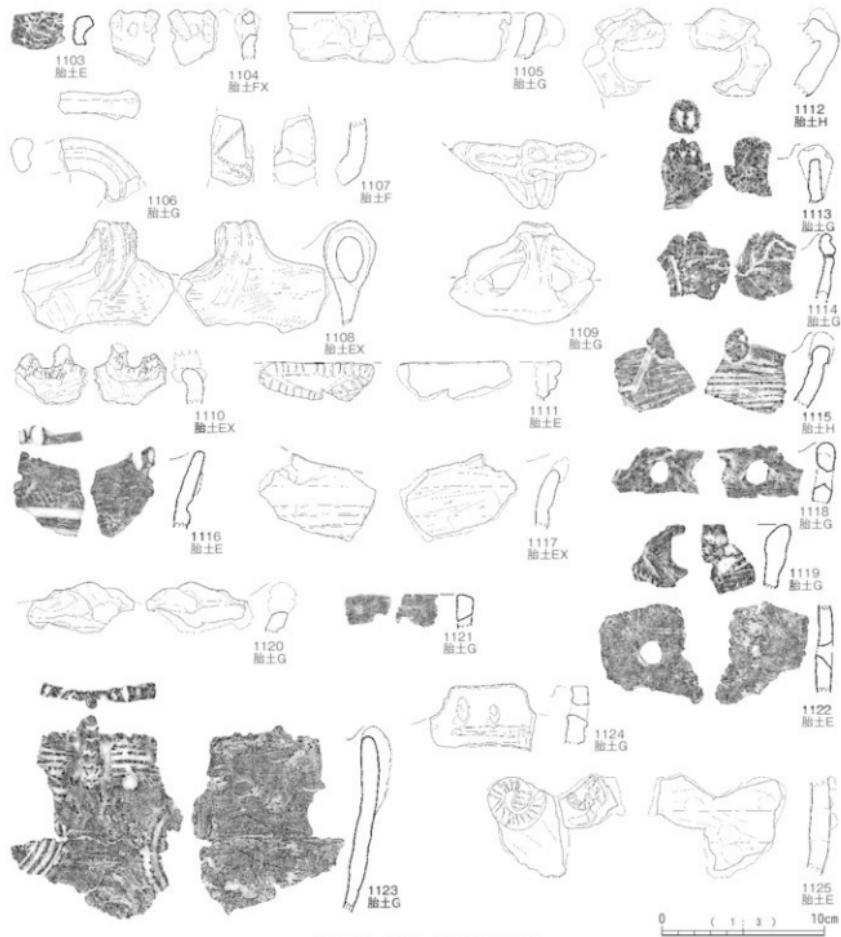
### 突起・把手等

各種の土器の口縁部を飾っていたもので、剥落したものを取り扱った。

1103はねじり紐状資料で、上面は二枚貝で刺突する。1104は明かり窓の両端に粘土紐を縱方向に貼付けている。1105はほぼ口唇部と同じ高さに設置した橋状把手で、深く明瞭な並行沈線文を跨ぐ。1106,1107は把手の一部で、1106は中央部に沈線文が施されている。1107はいわゆる指宿胎土を使用するもので二枚貝による刻みが施されている。1108も鉢形土器に取り付けた橋状把手で、2本の粘土紐を貼付ける手法が用いられ、破断面からは急速に器壁が薄くなる様子が看取できる。把手の両端には二枚貝で連続して刻みを施し、中央部はヘラで押される。胎土は砂粒を多く含むので角閃石の混入が目立ち、器面はざらついた質感を呈する。1109は鉢形土器の形状をなす口縁部に貼付けた突起物で、口唇部を跨ぐ粘土紐とその中央部と外縁を橋状に繋ぐ把手で構成し、その間には広い明かり窓が設けられる。口唇部を跨ぐ橋状把手は幅広の1本の粘土紐で取り付けられ、その後5mm程の細い粘土紐で端部を囲んでいる。一方、前面の橋状把手は5mm程の細い粘土紐4本を上下に重ねて作出する。突起部では重厚に粘土が使用されるが破断面では急速に器壁が薄くなる。また、内面の器面調整は入念に行われ、ヘラ磨きの可能性もある。器面は明褐色を呈し、白色鉱物が目立つ胎土を使用する。1110は口縁部に貼付けた突起部の明かり窓の一部で、上部は欠損する。突起上面は二枚貝の刻みが、器面には浅い沈線がみられる。胎土には白色鉱物を含み、硬質でザラザラした器面を呈する。1111は突起部装飾の一部が剥落したもので、隆帯上に連続して刻みを施す。1112は剥落した把手の一部である。1113は筒状突起で、上面と正面に刺突文を施す。1114は口唇部に貼付けたねじり紐突起で、隙間が明かり窓となる。胎土には白色鉱物が目立つ。1115は双角状突起の一部とみられ、胎土に大粒の白色鉱物を含んでいる。1116,1117,1118,1119は明かり窓の破損品である。1120は口唇部に貼付けたねじり紐突起である。1121,1122には補修孔が観察される。1123は口縁部に縱方向に貼付けた突起文で、上面は二枚貝で横方向に刻みが施されている。口唇部も同様に刻みが施されており、突起文の右には穿孔が行われているが途中で中断している。1124は台形状突起の明かり窓部分にある。1125は天地も定かでないが、右回りと左回りの刻みを持つ隆帯文が対となるものであるがそれ以外は無文で器壁は厚い。



第155図 突起・把手等分布図



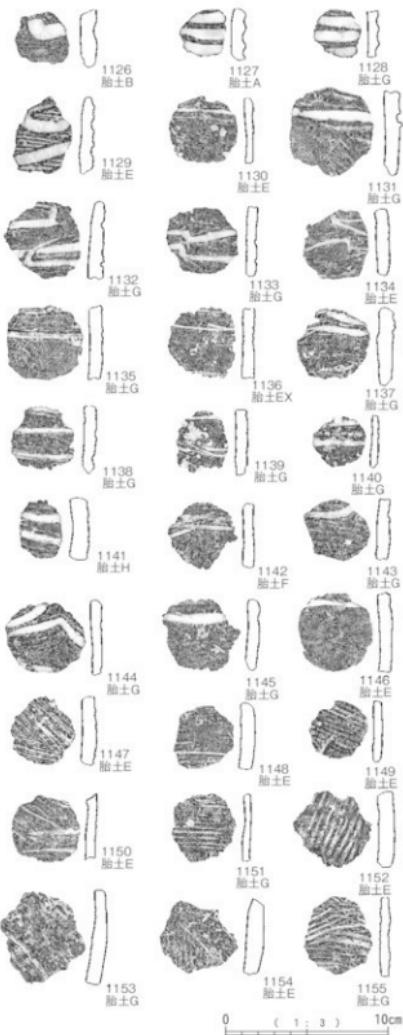
第156図 突起・把手等実測図

第64表 突起・把手等観察表（1）

測定No.	IDNo.	計上No.	X座標	Y座標	Z座標	断面	クリップ	胎土	備考
1103	1898	18234	81.373	143.378	8	B	E		
1104	-B	0.000	0.000	0.000	II	C-9	FX		
1105	14055	25.892	84.917	143.721	II	C-9	G		
1106	-B	0.000	0.000	0.000	III	A,B-4.5	G		
1107	-B	0.000	0.000	0.000	III	A,B-4.5	F		
1108	14067	16.963	7.094	143.658	II	B-1	EX		
1109	19015	19.268	85.195	142.887	II	B-9	G		
1110	196	15.907	84.207	143.181	II	B-9	EX		
	B41	20.824	85.811	143.606	II	C-9	E		
1111	-B	0.000	0.000	0.000	II	C-9	E		
1112	14429	25.176	91.770	143.714	III	C-10	H		
1113	9631	23.451	18.081	144.297	II	C-2	G		
1114	-B	0.000	0.000	0.000	II	C-3	G		

第65表 突起・把手等観察表（2）

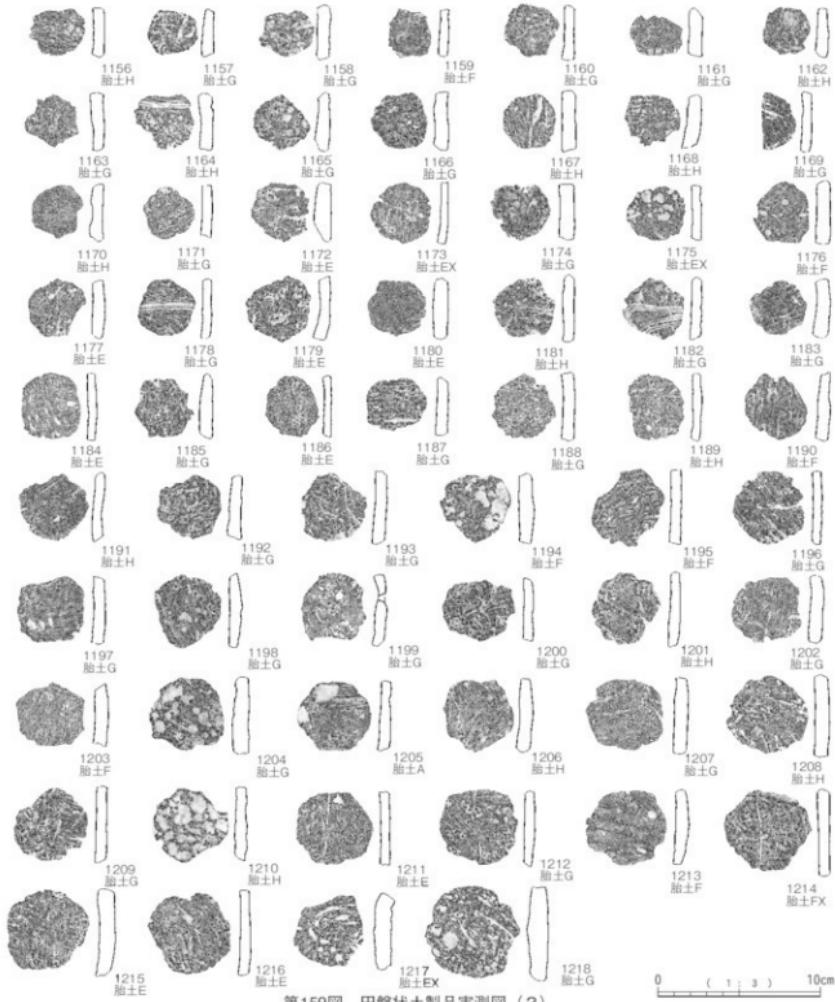
測定No.	IDNo.	計上No.	X座標	Y座標	Z座標	断面	クリップ	胎土	備考
1115	-B	0.000	0.000	0.000	II	B-2	H		
1116	13664	25.178	85.566	143.771	II	C-9	E		
1117	1807	16.712	80.733	143.312	II	B-9	EX		
1118	14651	24.388	84.330	143.660	II	C-9	G		
1119	2127	25.081	71.098	144.711	II	C-8	G		
1120	15946	25.381	91.972	143.643	II	C-10	G		
1121	2012	25.533	77.451	144.368	II	C-8	G		
1122	15549	19.877	88.695	143.226	II	B-9	E		
	1790	26.819	78.507	144.358	II	C-8			
1123	13839	26.890	78.583	144.132	II	C-8	G		
	13841	26.922	78.694	144.137	II	C-8			
1124	3269	16.491	42.296	144.638	II	B-5	G		
	6011	26.083	69.494	144.774	II	C-7	E		
1125	15987	17.726	83.348	143.060	II	B-9			



第158図 円盤状土製品実測図（1）

円盤状土製加工品

土器片を再利用した円盤状土製加工品は105点出土し、内93点を掲載する。円盤状土製加工品の内訳は、パンチにより周辺を円形に二次加工したものが88点、周辺部を磨いたものが17点である。また、1199は穿孔が行われている。利用部位については、1217と1218の2点が底部で



第159図 円盤状土製品実測図(2)

あり。施文帯が21点、それ以外の胴部が82点である。

分類が分かる資料でみると、1126は5A類で雲母を多量に含み、1127,1128,1129,1130は5B類となる。1131は7B類である。また、1132が11A類矩形文、1133と1134が11B類鉤形文、1135,1136,1137,1138,1139,1140が11F類並行沈線文である。残り6点の分類は不明であるが、いずれも沈線文を主体とするもので、四線文や幅広とした沈線文はみられない。

第66表 円盤状土製品観察表(1)

試験No.	通No.	記上No.	X座標	Y座標	Z座標	部位	クリーフ	施文	備考
1126	一通	0.000	0.000	0.000		Ⅲ	C-9	B	
1127	一通	0.000	0.000	0.000		Ⅲ	B-9	A	
1128	一通	0.000	0.000	0.000		I	B-7	G	
1129	3179	21.531	87.006	143.411		Ⅲ	C-9	E	
1130	3158	22.192	86.227	143.440		Ⅲ	C-9	E	
1131	13945	24.055	27.684	144.696		Ⅲ	C-3	G	
1132	10330	25.630	25.224	144.894		Ⅲ	C-3	G	
1133	—	0.000	0.000	0.000		—	—	G	
1134	36034	12.258	41.138	144.337		Ⅲ	B-5	E	
1135	19628	18.703	81.917	143.067		Ⅲ	B-9	G	

第67表 円盤状土製品観察表(2)

件番号	形態	No.	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	出土	備考
1136	一絃	0.000	0.000	0.000	三	B-9	EX		
1137	一絃	0.000	0.000	0.000	三	A-4	G		
1138	一絃	0.000	0.000	0.000	I	B-2	G		
1139	一絃	0.000	0.000	0.000	三	B-9	G		
1140	一絃	0.000	0.000	0.000	三	C-9	G		
1141	一絃	0.000	0.000	0.000	三	B-9	H		
1142	一絃	0.000	0.000	0.000	I	C-3	F		
1143	3623	19.629	90.997	143.719	E	B-10	G		
1144	14186	20.588	81.781	143.476	三	C-9	G		
1145	一絃	0.000	0.000	0.000	三	B-9	G		
1146	7391	23.817	19.39	144.322	三	C-2	E		
1147	9092	18.573	80.264	143.343	三	B-9	G		
1148	一絃	0.000	0.000	0.000	三	C-10	E		
1149	一絃	0.000	0.000	0.000	三	C-9	E		
1150	一絃	0.000	0.000	0.000	三	B-9	E		
1151	3440	21.827	89.795	143.705	三	C-9	G		
1152	7918	18.569	80.460	143.375	三	B-9	E		
1153	9999	13.513	14.161	143.965	三	B-2	G		
1154	一絃	0.000	0.000	0.000	一	B-7	E		
1155	1175	23.373	36.296	144.190	N	C-4	G		
1156	10100	14.741	18.125	144.186	S	B-2	H		
1157	16568	18.787	86.367	143.172	三	B-9	G		
1158	19423	15.878	13.891	143.672	N	B-2	G		
1159	10590	17.152	84.538	143.136	三	B-9	F		
1160	7450	24.272	83.465	144.717	S	C-6	G		
1161	一絃	0.000	0.000	0.000	S	B-8	G		
1162	566	19.718	85.995	143.465	S	B-9	H		
1163	11776	24.183	80.050	143.963	S	C-9	G		
1164	15063	13.402	15.122	143.852	S	B-2	H		
1165	一絃	0.000	0.000	0.000	S	B-9	G		
1166	17630	22.063	85.265	143.449	S	C-9	G		
1167	一絃	0.000	0.000	0.000	S	B-9	H		
1168	一絃	0.000	0.000	0.000	S	B-8	H		
1169	4601	22.884	61.026	144.903	S	C-7	G		
1170	14413	23.738	92.796	143.718	S	C-10	G		
1171	15664	18.894	84.799	143.050	三	B-9	G		
1172	9053	18.567	81.819	143.129	三	B-9	E		
1173	11331	20.294	86.027	142.874	S	C-9	EX		
1174	3419	20.314	89.523	143.653	I	C-9	G		
1175	15575	19.903	83.590	143.234	三	B-9	EX		
1176	14001	27.591	88.789	143.108	S	C-9	F		
1177	20125	26.025	85.695	142.969	S	C-9	E		
1178	13632	21.695	82.720	143.590	S	C-9	G		
1179	9312	21.223	81.600	143.623	S	C-9	E		
1180	一絃	0.000	0.000	0.000	S	C-10	E		
1181	3623	19.948	90.751	143.759	E	B-10	H		
1182	7969	20.178	86.943	143.143	N	C-9	G		
1183	13561	24.809	85.134	143.751	S	C-9	G		
1184	7951	18.847	86.205	142.990	N	B-9	E		
1185	13847	21.904	74.708	143.941	S	C-8	G		
1186	一絃	0.000	0.000	0.000	S	B-9	E		
1187	一絃	0.000	0.000	0.000	S	C-9	G		
1188	4943	12.478	51.785	144.477	S	B-6	G		
1189	6209	22.004	73.747	144.296	S	C-8	H		
1190	一絃	0.000	0.000	0.000	S	C-10	F		
1191	18215	18.629	90.263	143.144	S	B-10	H		
1192	14038	26.055	86.477	143.706	S	C-9	G		
1193	一絃	0.000	0.000	0.000	S	B-9	G		
1194	13779	19.730	79.698	143.490	S	B-8	F		
1195	15509	20.396	92.281	143.338	S	C-10	F		
1196	4827	23.298	61.796	144.856	S	C-7	G		
1197	8171	23.264	61.763	143.837	S	C-7	G		
1198	10523	18.684	91.581	143.460	S	B-10	G		
1199	40247	9.384	46.505	144.032	S	A-5	G		
1200	7146	29.377	73.943	144.452	S	C-8	G		
1201	3515	25.668	67.132	143.975	E	C-9	H		
1202	一絃	0.000	0.000	0.000	S	B-9	G		
1203	7345	23.370	18.302	144.296	S	C-2	F		
1204	19096	22.619	87.480	143.354	S	C-9	G		
1205	11976	20.362	72.216	144.233	S	C-8	A		
1206	16237	17.894	88.150	143.177	S	B-9	H		
1207	16566	23.918	75.569	144.191	S	C-8	G		
1208	15670	18.394	80.351	143.259	S	B-9	H		
1209	16578	20.089	90.804	143.254	S	C-10	G		
1210	一絃	0.000	0.000	0.000	S	B-9	H		
1211	4963	22.407	56.395	144.883	S	C-6	E		
1212	9156	17.591	78.886	143.359	S	B-8	G		
1213	10996	22.115	80.975	143.749	S	C-9	F		

第68表 円盤状土製品観察表(3)

件番号	形態	No.	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	出土	備考
1214		15764	21.709	89.056	143.375	S	C-9	PK	
1215		3054	24.099	89.104	144.643	S	C-2	E	
1216		6992	18.009	81.871	143.264	S	B-9	E	
1217		100017	13.506	16.634	144.067	S	B-2	EX	
1218		15696	17.815	83.499	143.068	S	B-9	O	

## 底部

底部については、土器の形態から平底と台付底部、台付彌形土器底部に分けられ、底部圧痕の種類によって、a類（組織痕）、b類（植物痕）、c類（無文あるいは不明）とに細分する。

## 平底a類（組織痕）

深鉢形土器の底部と思われるもので、平底である。底部には組織痕がみられ、組織技術毎に分けることができる。大きさは「編み」技術と「組み」技術で分けられる。それぞれの技術でさらに細分できる。なお本報告では、民俗例（竹細工）で用いられている名称を利用し、大分県別府産業工芸試験所 1991『竹編組技術資料』を参考とした。

## ①「編み」技術

「編み」技術とは、竹材や藁材などを直横から編み材で編み込む類である。縦横の素材が交叉している部分を見ると、編み材は竹材や藁材を表裏から取り込んでいる。

## 縄目編み

あらかじめ準備された縦心材の列を、直横から別な素材で順次編み込み、平面を形成する技術である。心材を横方向にすると、いわゆるスダレ状压痕の原体となる。したがってスダレ状压痕と縄目編み技術は同一のものである。1219~1228が該当する。1219,1220,1221は目の詰んだ縄目編みである。1220は縦の列が平行でないでの底編みの部分と思われる。1221は密な縄目編みである。1222は縦材が放射状に広がり、かご編みの底の部分のようでもある。1223は縦目編みの压痕を上からケズり調整したものである。

## スダレ状編み

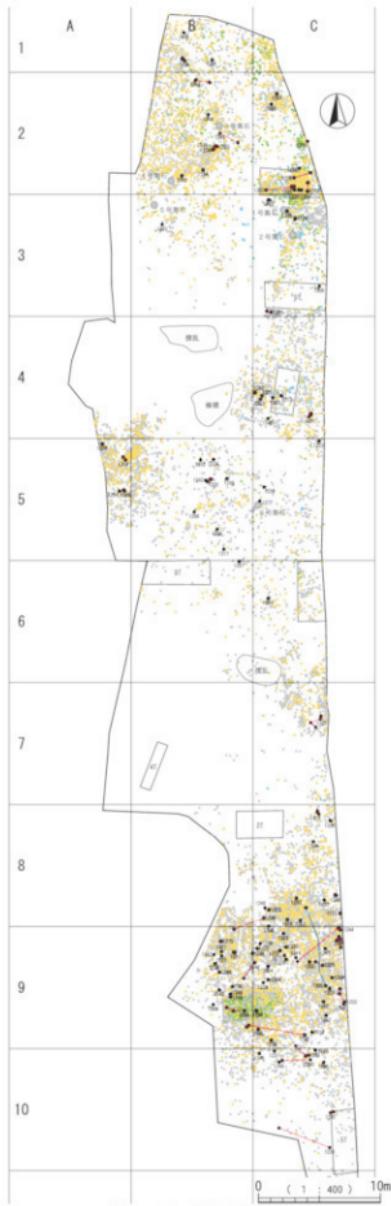
縦目編み技術であるが、径の間隔が広く、スダレ状を呈する一群である。1229~1244が該当する。1240は径材の本数が増えている様子が観察できる。

## 縄目編み底

縄目編みの技術でかごの底を編んでいるものである。いずれも編み技術を用い、径材が放射状であることが分かる。1245~1248が該当する。

## その他の編み

技術不明あるいは上記分類のいずれにも属さない編み技術を用いている一群である。1249は撫でられており、不明瞭であるが縄目編みと推定される。1250は一部に“ハ”字状を呈する異方向の縄目編みらしき压痕が観察される。このような編み方は民俗例でもみられ、ねこ編みとも呼ばれている。しかし、本資料は部分的であり、ねこ編み技術が用いられているかどうかについては断定できない。



第160図 底部分布図

### ②「組み」技術

「組み」技術とは、竹材や帯状に整えられた木材を異方向に組み合わせる類である。組まれた部分の素材同士の係わり方をみると、各素材は互いに接しているばかりで、「編み」技術のように表裏から取り込むということはない。

#### 平組み（ござ目組み）

従来「平織り」と呼ばれていたものであるが、「編み」「組み」の区別を明確にするために「平組み」と呼ぶ。「一本超え、一本潜り、一本送り」を基本とする技法である。現在の民俗例（竹細工）では、「ござ目組み」とも呼ばれている。1251～1265が該当する。

1251,1252,1253は典型的な平組み技術が用いられたものである。1254も平組み技術を用いたものとみられる。1255,1256,1257は平組みを基本とした組み技術が用いられている。1258,1259は一部に平組み技術がみられる。1262,1263,1264,1265は平組みに類似した技術が用いられている。

#### 飛びござ目組みに類似した組み

「飛びござ目組み」とは横組みが「2本越え、1本あるいは2本潜り」を基本とする組み方で、左上がりあるいは右上がりの装飾的効果をあらわす技術である。現在でも竹細工で用いられている。本遺跡でも平組みを基本としながら「2本越え、1本潜り」が一部行われている組み技術がみられ、この一群を飛びござ目に類似した組みとして分類した。中央部に大方斜めに走るような組み方が見える。1266～1274が該当する。

#### 枠網代組

3本あるいは5本の異なる飛び、斜くを繰り返し、中心から周間に枠目が広がっているように見える組み技法で、現在でも使われている技術である。

1275は不明瞭な部分があるが、連続した枠目を呈している様相が全体的にうかがえるもので、枠網代組と判断した。本県では、鹿児島市原田久保遺跡、南さつま市芝原遺跡にこの技術がみられる。

#### その他の「組み」技術

これまで分類されていない組み技術痕をこの中に分類した。1276,1277は中央部を撫で消しており、縁辺部にわずかに組み技術痕が残る程度である。1278は2本越えが斜めに並んでいる部分と不規則な部分がみられる。全体的な印象から、飛びござ目か枠網代を意識したものと推測される。1281,1282は網代組に類似している。

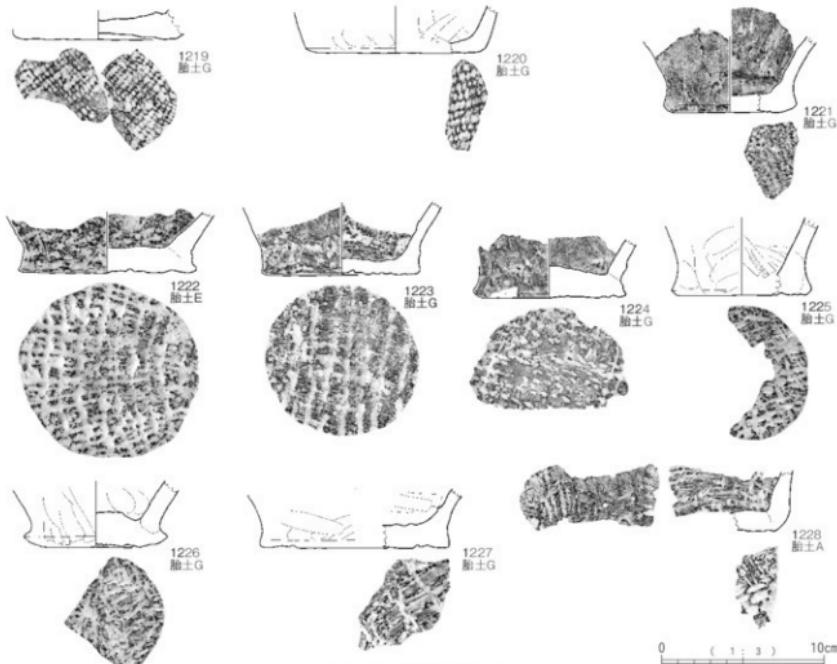
#### ③「編み」と「組み」が用いられている技術

編み技術と組み技術が同時に用いられている編組痕である。1294～1297が該当する。

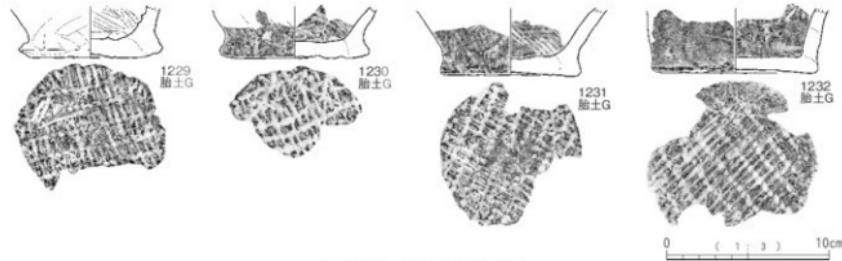
1294は中心部が欠落している。組み技術を基本とし、一部編み技術を用いている。1295が中心部に組み技術が、縁辺部に編み技術が用いられている。

#### ④技術不明

編組痕はみとめられるが、残存状況が良好でなく編組



第161図 底部実測図(1)



第162図 底部実測図(2)

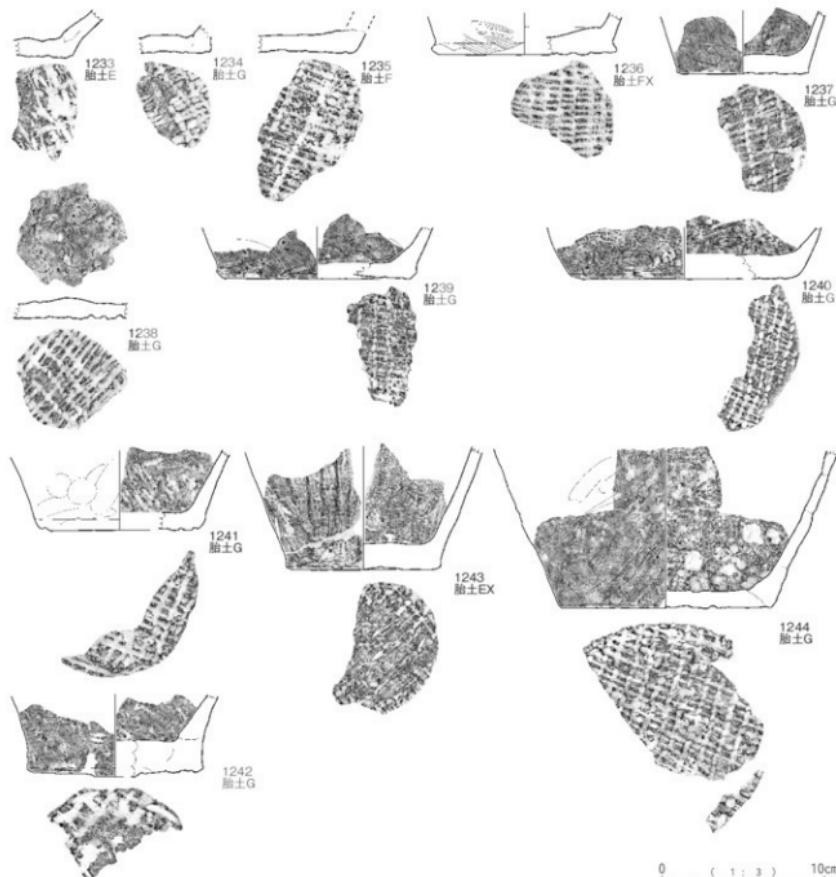
第69表 底部観察表(1)

床印No	Sho	上層No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	粘土	備考
1219	—B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9		G	
1220	—B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10		G	
1221	10108	23769	19.629	144.456	Ⅲ	C-2	G		
1222	5136	23413	19.634	144.532	Ⅲ	C-2	E		
1223	9867	20625	36.781	144.681	Ⅲ	C-4	G		
1224	3261	16796	41.712	144.690	Ⅲ	B-5	G		
1225	17297	17.088	16.068	144.177	Ⅲ	B-2	G		
1226	17315	16.781	16.295	144.146	Ⅲ	B-2	G		
1227	17296	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-2	G		
1228	14106	17.425	82.412	143.139	Ⅲ	B-9	G		
1229	22726	82.691	143.630	Ⅲ	C-9	A			

161

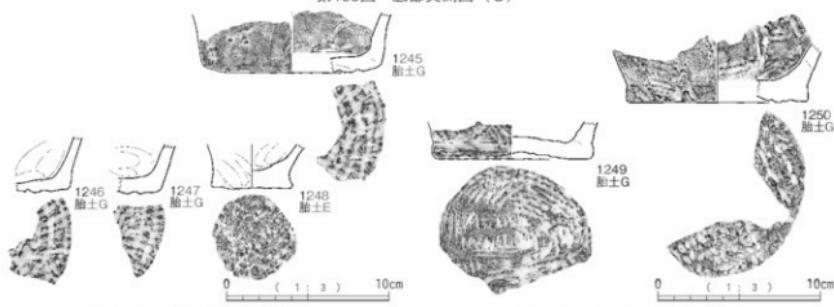
第70表 底部観察表(2)

床印No	Sho	上層No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	粘土	備考
1229	15766	21.508	89.218	143.408	Ⅲ	C-9	G		
	1134	26.294	98.113	144.819	Ⅲ	C-10			
1230	13400	22.140	96.519	144.096	Ⅲ	C-10	G		
	2747	18.515	82.118	143.394	Ⅲ	B-9			
1231	9728	18.515	82.118	143.394	Ⅲ	B-9	G		
	9002	18.412	82.104	143.292	Ⅲ	B-9			
1232	16771	26.368	95.262	144.191	Ⅲ	C-10			
	16772	26.602	95.187	144.213	Ⅲ	C-10	G		
	—B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10			



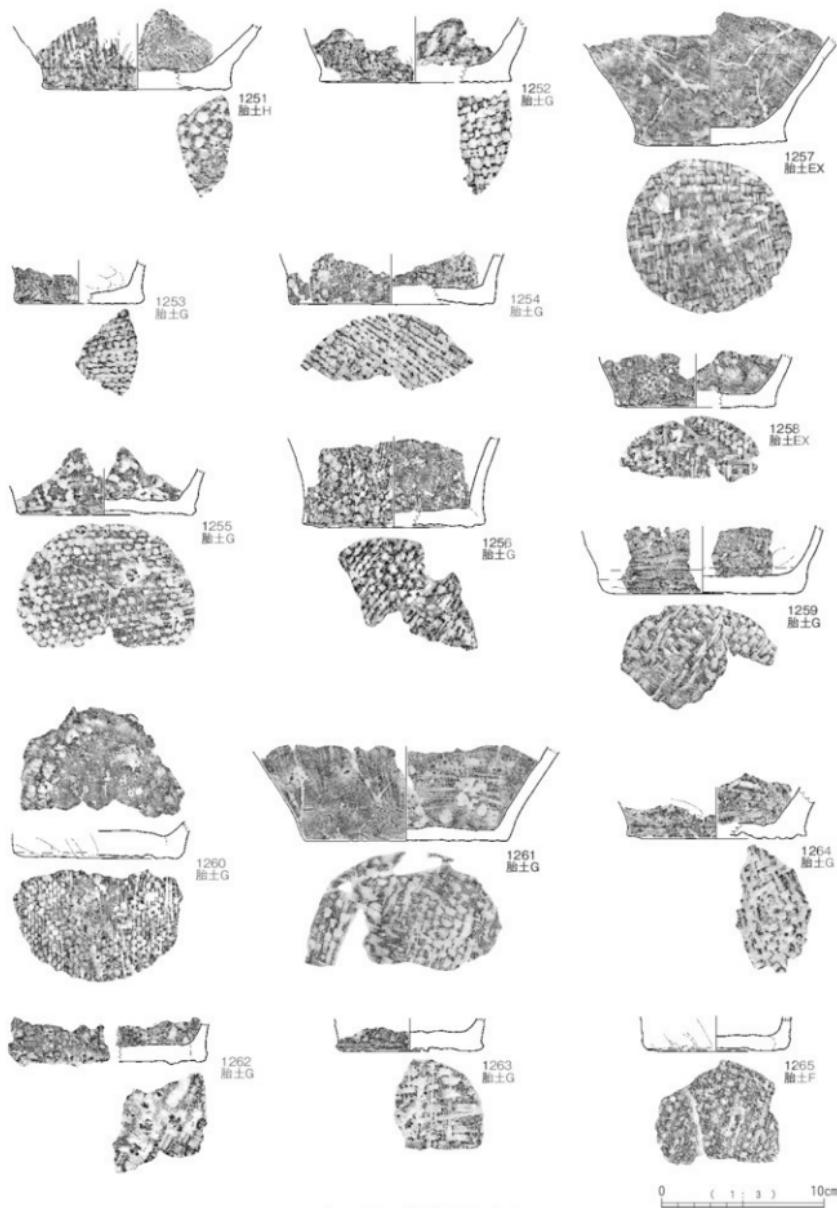
第163図 底部実測図（3）

0 ( 1 : 3 ) 10cm

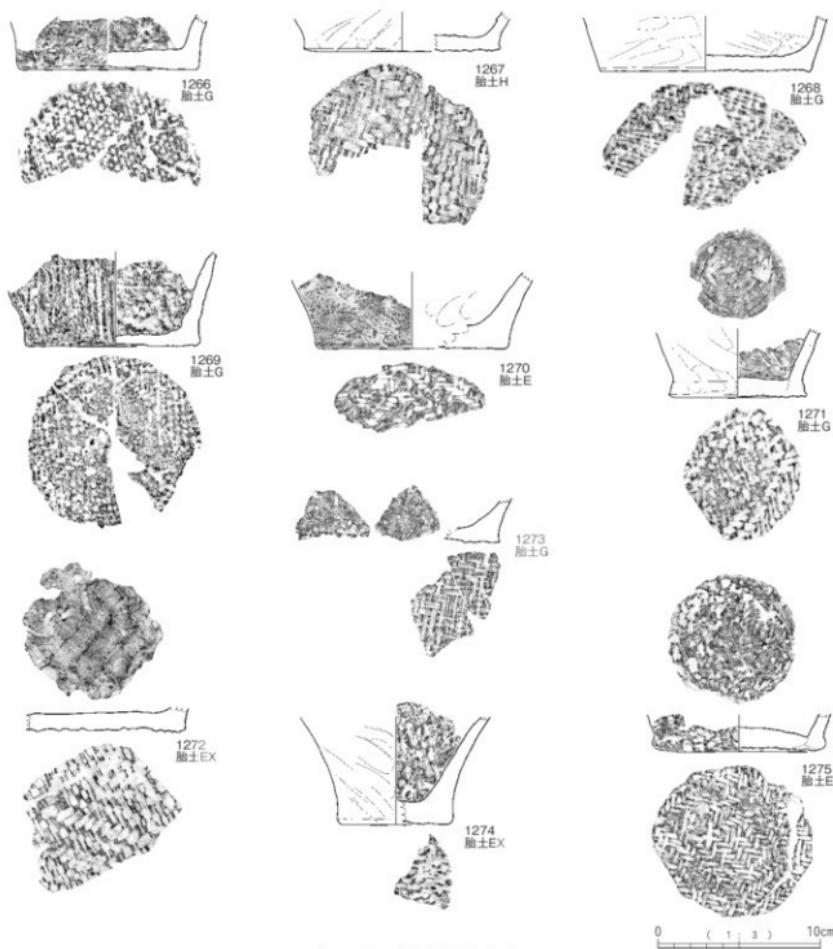


第164図 底部実測図（4）

第165図 底部実測図（5）



第166図 底部実測図 (6)



第167図 底部実測図(7)

平底C類

技術が不明のものをここで取り扱う。

1298は表面が剥落している技術は不明である。1300は白色の粉状のものが付着している。圧痕は薄く不明である。

#### 平底b類

編組痕はみられず、植物の葉を土器の下に敷いた痕と思われる。1301~1310が該当する。それぞれの葉脈痕がみられ、1302, 1307, 1310の表面には白い粉状の付着物がみられる。

圧痕が最初から無いか、撫で消されており圧痕がみられない底部の一群である。1311~1340が該当する。

1314, 1320, 1324, 1325, 1327, 1332, 1338, 1339は底部に白色の粉状の付着物がみられる。1330は植物繊維状のもので撫でたような痕跡がみられる。1318は細かい植物の繊維痕が2条みとめられる。1319は細かい植物繊維と思われる圧痕が一部にみられる。1340は丸味を帯びる底部である。底部には細かい筋状の痕がみられるが、指紋の痕と思われる。